

反畑 誠一（たんばた・せいいち）先生

音楽評論家 立命館大学客員教授

音楽評論家。

立命館大学産業社会学部客員教授（本講座の他、
「企画研究」・専門特殊講義 SK「ポピュラー音楽論」を担当）
一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会 特別顧問。
日本レコード大賞 常任実行委員・アルバム大賞審査委員。
毎日芸術賞推薦委員。駐日韓国大使館諮問委員会委員。
新聞コラム「ヒットの周辺」（京都新聞など 26 紙毎週掲載）、
コンサート評・ポピュラー音楽部門（「日本経済新聞」）など
多数執筆中。音楽情報番組「うたなび！」（京都放送など
12局ネット）のナビゲーターを務める。
アジア各国の音楽文化・産業の研究・分析も手掛ける。



〈講義概要〉

開講オリエンテーションは、立命館大学産業社会学部の竹内謙彰副学部長の挨拶から始まった。本講座開講のために寄附を賜った3団体について紹介し、コンテンツ産業の第一線でご活躍中の素晴らしいゲスト講師のご講義を聴くことのできる貴重な機会であると説明。様々な切り口から現状を把握し、学習を深めてキャリア形成等に役立てて欲しいと受講生を激励した。続いて、本講座のコーディネーターであり音楽評論家でもある立命館大学客員教授の反畑誠一氏が、講座の成り立ちや概要、学習目標についてガイダンスした。デジタル時代におけるコンテンツ産業の現状と近未来について、国際的規模の動向を踏まえて多角的視野から学び、分析し、次なる方向性を見出すことが授業の目標であると言及した。

その後、本講座の学習の基本となる著作権やコンテンツ産業の概念、デジタル技術の進歩がもたらした情報革命について説明し、音楽産業を軸にコンテンツ産業全体の今後の展望を考える上で必要な知識を示した。また、無料動画配信やライブ産業の実態等最新の情報についても解説した。最後には、次回からの講義テーマや豪華な講師陣、講義に関連する著書を紹介するとともに、学習のポイントを伝え、予習を行い意欲的に受講するよう強く促した。

《受講生の感想》

●コンテンツ産業に関わっていく上で、著作権の問題は必ず考えなければいけない事柄だと感じた。自分のこれからの活動においても重要なことになってくと思うので、著作権についての知識を身に付けたい。また、この授業を通して近年のコンテンツ産業におけるビジネスの傾向・工夫を知りたい。それを知った上で、今後、コンテンツ産業に関わっていきたいと思う。

立命館大学・映像学部・2 年生

●映像学部生にとって身近なトピックであるデジタル・コンテンツ文化・産業論を様々な切り口で学ぶことができるこの授業がとても楽しみです。反畑先生がおっしゃったように“リスペクト”“自己管理”“コンセントレーション”を持ってこの授業を活用していきます。コンテンツ産業が急速に発展している時代を担っていくことになる自分たちがすべきこと、出来ることを模索していきたいです。

立命館大学・映像学部・2 年生

●私は国際関係について日々学んでいるので、著作権の戦時加算について非常に興味がわきました。国際関係とコンテンツ産業を合わせて考えるのは、普段の学びの中ではなかなかない機会なので、自分の専攻を常に頭の中に置きながら、これから学習していきたいと思います。その中で自分が今まで気付かなかったもの、見えていなかったことを発見していきたいと思います。

立命館大学・国際関係学部・3 年生

●コンテンツ産業界の最前線で活躍されているプロフェッショナルの方々のお話を聞く機会はなかなかないので、毎回の授業を大切にしたいと思います。著作権についての知識が不可欠となるので、自分なりに勉強してみたいです。

立命館大学・法学部・4 年生

●とても受講したかった講義のため、受けられて本当に良かったです。日本、世界で注目されているコンテンツ産業の最前線で活躍されるゲスト講師の貴重なお話はもちろんのこと、この機会を生かし様々なコンテンツ産業、文化に触れて学びたいです。

立命館大学・映像学部・3 年生

●この講義を通して、今の日本の音楽業界の抱える課題、そして発展について深く学び、学部でのコンテンツビジネスの研究に生かしていきたい。日本の音楽業界はまだまだ世界に向けたビジネスに遅れをとっていると思う。この遅れを取り戻すには私たち大学生が今の音楽業界をビジネス的側面で学ぶことが不可欠であると思う。しっかりと自分の知識として吸収できるようにしたい。

立命館大学・映像学部・3 年生

●コンテンツ産業がどのように発展していったのか、どのように現在に至っているのかという歴史的な部分に触れていただき、この授業の導入として非常に有意義な時間でした。インターネットが広まると共にどんどん形態を変えていくコンテンツ産業の動きを数々の著名な講師の方からのお話を通して学んでいけたらと思っています。

立命館大学・映像学部・2 年生

●日本のエンタテインメント産業界において、CDなどの音楽ソフト市場が低迷しているということが分かった。この問題に対して、私たちのような若い世代の人々が問題意識を持ち、何かしらの働きかけをしていかなければいけないと思いました。一方向からその事柄を見るのではなく、多角的な視野で現状と未来を見ていかなければいけないと思いました。

立命館大学・産業社会学部・3 年生

●今年で5回目の受講となりますが、非常にタイムリーで推移が激しい分野ですので、とても柔軟にリアルタイムな出来事、問題を講義で取り扱っていただけるという点がこの講義の大きな魅力の1つであると思います。コンテンツ産業の現状と問題点をしっかり学んでいきたいです。

立命館大学・産業社会学部・4 年生

●私は映像学部なのでデジタルやアニメーション産業、音楽産業についてとても興味があります。コンテンツ産業は国によって考え方が異なることも分かりました。コンテンツ産業の最前線で活躍されているの方々のお話が聞けるということで、今から大変楽しみです。

立命館大学・映像学部・2 年生